

## [015] 雅俗表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4785217>

---

出版情報：雅俗. 15, 2016-07-30. 雅俗の会  
バージョン：  
権利関係：

■同人一覽

(維持同人)

天野 聡一	板坂 耀子	井上 敏幸
大久保 順子	大庭 卓也	檜澤 葉子
勝又 基	亀井 森	川平 敏文
菊池 庸介	ロバートキャンベル	
吉良 史明	久保田啓一	古賀 将仁
白石 良夫	進藤 康子	園田 豊
高杉 志緒	高橋 昌彦	田中 道雄
中野 三敏	中山 右尚	西田 耕三
丹羽 謙治	沼尻 利通	菱岡 憲司
三國 恵里	宮崎 修多	村上 義明
盛田 帝子	安永 美恵	吉田 宰
若木 太一	李 静怡	
穴山 健	飯倉 洋一	池澤 一郎
磯部 敦	位田 絵美	入口 敦志
岩井 眞實	大島 明秀	岡田万里子
尾崎 千佳	神永 暁	柏崎 順子
加藤 弓枝	神作 研一	木越 治
清登 典子	工藤いずみ	工藤 俊玄
琴 榮辰	合山林太郎	佐方 章子
塩村 耕	清水 俊隆	神野 雄二
白瀬 浩司	末安 礼奈	勢田 道生
田邊菜穂子	中森 康之	中山 成一
西浦 和稔	服部 仁	花田富二夫
浜田 泰彦	伴野 英一	平岡 隆二
平山 聖悟	廣瀬千紗子	藤沢 毅
古相 正美	牧野 宏子	松村 美奈
溝田 直己	三ツ松 誠	宮 徹男
村田 裕司	柳沢 昌紀	矢野 準
山田 洋嗣	米谷 隆史	脇山 真衣

(五十音順)

■後記

『雅俗』第十五号をお届けします。▼論考は四本。十七世紀佐賀の儒学者武富廉斎を取り上げた中山稿は、この時期の儒学者を考えるうえで、「和漢」という視座が有効であることを証明してくれる。山本北山およびその一門における袁中郎テキストの校勘を論じたのは合山稿。この時期のそれが、いわゆる「性靈説」の単純な受容にとどまらないことが分かる。服部稿は、尾張の富商逸人の俳諧活動を論じる。絵画的にも興味深い。『陰鷲録』『自知録』といった善書の中身を解説し、それが我が国の律僧に受容された様相を論じたのが西田稿である。この方面の基本的文献となろう。▼次に研究ノート。「今の歌人は意中俗にて、俳諧の雅にははるかにおとれり」。こういう刺激的発言にあふれる小津久足の歌学随筆。菱岡稿五九頁を見るべし。白石稿の鷲見文庫紹介は今回でひとまずの満尾、川平稿はようやく三の折に入るところ。板坂稿は熱海温泉の紀行中の逸品を紹介する。▼学術エッセイ「学問のいりぐち」第二回は、いりぐちあつし氏の野心作。『平仮名／盛衰記』貫之乃夢」という外題の黄表紙でも書けそうな感じ。「私の研究履歴」は濱田啓介氏。鹿児島大時代の苦業が回想されていて、しみじみとする。これに、筑前の国学者青柳種信が遠州の内山真龍に当てた書簡(手紙の会)、先学の筆跡からその御人柄が偲ばれる中野稿の好評連載です。▼昨年末、中野三敏先生の傘寿をお祝した『雅俗小径』なる小冊子を、有志による刊行会を立ち上げて、発刊した。その一部は雅俗の会にて買い上げ、同人諸子にはすでにお配りしたところですが、講読会員の方でも、興味がある方はご購入いただけます。詳細は二三四頁をご参照下さい。(川平)

雅俗 第十五号

平成二十八年七月三十日 発行

■編集委員会

高橋昌彦 川平敏文 亀井 森  
 菊池庸介 菱岡憲司

■発行

雅俗の会  
 (事務局)  
 〒八二一八五八一  
 福岡市東区箱崎六一一九一  
 九州大学文学部 川平研究室内  
 電話 092-642-2419  
 e-mail: gazokki2@gmail.com

■印刷所

城島印刷株式会社  
 〒八二一〇〇二二  
 福岡市中央区白金二一九一六